



保井 志之 D.C



## 器具によるアジャストメント ⑤

アクティベータ器の研究は、「スピード」、「固有振動数」、そして「伝達率」(Transmissibility)の研究へとさらに進化していくことになります。「Transmissibility」とは、機械工学でよく使われる用語ですが、「伝達率」、あるいは「力の移動性」というように訳されます。アクティベータ器の研究では刺激振動がどれだけ人体に伝達するのかを表しており、生体振動医療に関する研究者達は、「伝達率」

を重要なテーマとしており、アクティベータ器の改良においても人体にスムーズでクリーンな振動を伝えるための理想的な波形フォームを目指しました。そして、この伝達率に基づいた理想的な波形を含んだ振動器具として電動のアクティベータ器Vが誕生しました。

アクティベータ器Vは、人体へのスムーズな振動を伝える伝達率の改良に加えて、臨床における使いやすさも追

求、今までのアクティベータ器とは異次元の矯正器具として生まれ変わりました。電動に加えてコードレスであること、人間工学に基づくグリップの持ちやすさや、調整ボタンの操作のしやすさが特徴的です。特に振動刺激を加えた時の患者側の体感は、従来の手動の器具とは異なる伝わり方を感じますし、術者側も器具内部で練り出されるハンマー巧打による跳ね返りの衝撃はほとんど受けません。

電動のアクティベータ器Vも手動と同様に内部構造はハンマーで金床を叩く仕組みです。動作構造はリニアソレノイドという電磁力を利用した機能部品を使用しています。単に機能部品を使用するのではなく、理想的な波形フォームに近づけるために力の強さ、スピード、持続時間などをコンピュータ制御していま

す。

私は、パーマー大学の選択科目でアクティベータ・メソッドを履修した際にはアクティベータ器Iを経験し、開業してアクティベータ器II、III、そして、IVを使い、現在ではVを使っています。手動器具が臨床的に効果がなかったわけではありませんが、やはり、電動のアクティベータ器Vは洗練され使いやすいと感じます。アジャストメントのスピード、周波数、伝達率と科学的な根拠に基づいた研究はカイロプラクティック・アジャストメントの本質を追求した科学的研究の一つであると思います。もしも、私ができる手による直接のアジャストメントにこだわり続けていたら、このようなアジャストメントの本質もわからないままでしたかもしれません。

(次号に続く)